

保育北九州

平成27年10月1日

発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話(093)661-2153番

発行人 酒井光義
編集人 日野真人

2015 181



〈提供 若松支部〉

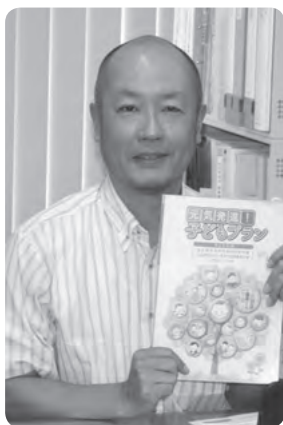
おともだちだいすき いっしょにあそぼう

(5歳児の作品)

表紙	1
就任ご挨拶	2～3
仲間たち	4～5
研修報告	6～7
雑感・編集後記	8

就任ご挨拶

子ども家庭局子ども家庭部
保育課長 黒 岩 亮



こんにちは。四月一日付で保育課長を拝命しました黒岩 亮です。よろしく願います。

私は北九州で生まれ高校まで生活し、大学は四国へ。その後、民間企業に就職し約十年ほど関東で暮らしていました。三十歳を過ぎ、市役所に入職し、入職後は、競輪事務所、総務、企業誘致、給与、

総務と経済産業系と総務系の仕事を行ったり来たりしていました。そんな私が、保育行政に携わることとなり、異動の内示を受けて驚く間もなく、着任早々、子ども・子育て支援新制度の施行の波に揉まれ、訳も分からず右往左往のままたつという間に半年余りが経過しました。

私には三人の子どもがいます。上の娘二人は幼稚園に通いましたが、一番下の長男は保育所にお世話になりました。仕事では保育と関りがありませんでしたが、息子が保育所に通っていたため多少なりとも保育の一端に触れる機会をいただきました。（とは言うもののほとんど送迎もせず、楽しい行事に参加させていただくだけのダメメンでしたが…）息子が保育所

に通う間、一番の楽しみは運動会でした。ハプニングあり、笑いあり、涙ありと様々な出来事が起き、運動会が終わって帰るときには心がほっこりしたのを覚えていいます。息子の成長を目の当たりにすると運動会に限らず日々の保育において、園長先生をはじめ保育士の先生達の尽力に感謝の気持ちでいっぱいです。息子が卒園した今でも、保育所の運動会だけは、こっそり覗かせていただいています。

十数年、北九州を離れた後に戻ってきて改めて北九州の素晴らしさを実感している今日この頃です。海の幸、山の幸に恵まれ、適度に都会で直ぐ近くに自然と戯れられる場所があり、私も自分の三人の子ども達を育てるのに北九州に戻ってきて良かったなど実感しています。

これから、この素晴らしい環境の下、子ども達のために、北九州の保育の発展に微力ながら尽力したいと考えていますので、よろしくお願い致します。



子ども家庭局子ども家庭部
保育指導担当課長

白 井 洋 子



このたび、四月一日付けで保育指導担当課長として参りました白井洋子です。よろしく願います。昭和五十三年に入職以来、門司区、小倉南区、若松区、戸畑区の合計九ヶ所の保育所で勤務いたしました。

保育所では元気な子ども達の笑顔や保護者、職員に支えられ色々なことを学ばせていただきました。保育所現場での楽しさ、そして苦しさ、しかし、何事にも代えられない多くの喜びを肌で感じ取ってきました。

私のモットーは「よく動いて、自分の眼で確かめる」こと。保育所勤務のときは所内をあちこちと動いていました。保育課であまり

動くことがないので、運動不足の解消法を思案しているところですよ。

職務内容は、主に第三者評価事業、保育士研修、認可外保育施設指導等です。今年度から新制度が施行されたことにより、勉強の毎日を送っています。

私の一番の苦手は、人前で話すことです。四月から研修等で何回か講義をさせていただきました。話し終える度に、「あのような話し方で理解してもらえただろうか」と振り返り、より分かりやすく伝えられるように日々、試行錯誤しています。

プライベートでは、孫が三人います。自分の子育ての時は生活に追われ、前進あるのみの毎日でした。しかし、立場が変わると「なるほどこうやって成長していくのだ」と、改めて保育士の眼で子どもが発達を追うことができます。子どもの育つ力に感動しています。

人間の根っこを育てる大切な乳幼児期を支える保育行政。保育の先人である先輩方から学ばせていただいたことをしっかりと肝に据

え、自分の役割を遂行していきたいと思っています。少しでも皆様方のお役に立てるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

子ども家庭局子ども家庭部
栄養指導担当課長

大村 美智子



平成二十七年四月一日付で栄養指導担当課長として着任しました大村美智子です。栄養指導担当係長として保育課勤務の後、保健福祉局健康推進課を経て、保育課に出入りしてきました。

九年前に保育課に赴任した年、「保育所給食三十年記念誌」を作成したおかげで、保育所給食の歴史を知ることができましたし、食事に関する研究会の委員長の中村先生（花かご保育園）とは、随分

親しくさせていただき、今でも可愛がって頂いております。

その記念誌の編集後記には『このような記念すべき年に保育課に勤務できてありがたい』と書きました。ところが、来年度、再び四十年記念誌作成に携わることができそうです。何という巡り会わせでしょう。

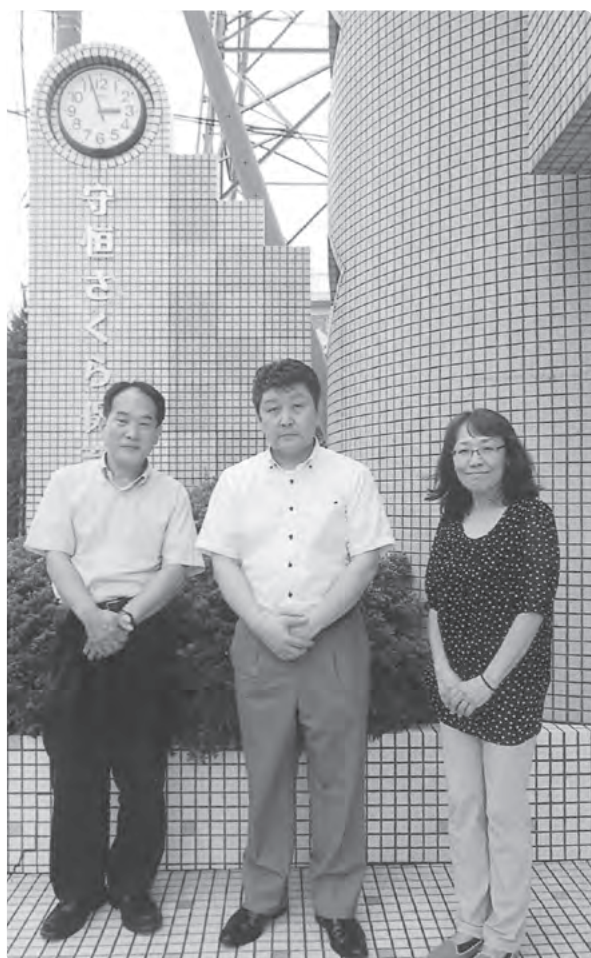
保育課に戻ってきて、保育士会北野会長に、とっても元気な声で「おかえりなさい」って言っていたとき、「よかったあ」としみじみ思いました。その後も、保育士会役員会や保育所給食伝達研修でも「おかえりなさい」って声をかけられ、人と人との出会い、人が人に発する声かけで、どれだけ、勇気づけられるかつくづく感じることもできました。もし、「また、戻ってきたんですか」と、くらくらいう声で言われたら、意気消沈し、やる気も一気に失ってしまうでしょう。仕事に対する姿勢、もちろん、子ども達に接する時も同じだと思いますが、人をよくするのも悪くするのも声かけ次第で随分変わるものだと思います。

保育園の食育月間の実施事例を

読んでみると、様々な取り組みがなされ、子ども達の元気な声が聞こえてくるようです。自分達で何を食べたいか考え、畑で栽培し、収穫した食材を使って料理して食するという夢のような食育をやっている保育園がたくさんあります。そのような保育園に通う子ども達は好き嫌いが少ないはずですよ。

食えることは「生きること」と言いますが、私はそれより、食えることは「楽しいこと」まず、食事を楽しみとしてほしいと思っています。小学校の頃、給食献立表をみて、学校を休みたい等と思ったのですが、給食が楽しかったので学校に来ている友達も沢山いました。保育園に通う全ての子ども達が、『給食が楽しみだから保育園は休みたくない』と思ってくれる給食でありたいと願っています。

保育園での食育が益々活発になっていけるよう、少しでもお手伝いできればと思っています。自分なりに精一杯精進していきますので、よろしく願います。



今回は小倉南区徳力に新設された小規模保育園「守恒さくら保育園」を訪ね、仁科博光園長（代行）にお話を伺いました。



Q 保育園の開設年月日・開所時間・児童数・保育士数等を教えてください。

A 開設は平成27年3月1日。定員は19名です。20名以上になると乳児専門保育所になります。3歳児以降は優先的に守恒保育園に入園が出来るようになっていきます。開所時間は午前7時から午後6時までです。保育標準時間の11時間で延長はありません。9月現在の園児数は、0歳7名・1歳7名・2歳1名の計15名です。職員の構成は保育士常勤4名、8時間パート1名、5時間パート1名、他に事務員1名、調理員1名です。施設

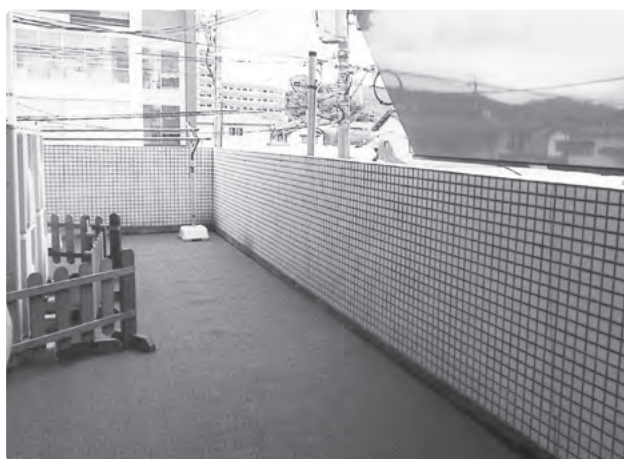
は、本園から1.5km離れたところに開所しました。職員配置も本園と同じ計算方式で配置しています。

Q 今回、小規模保育事業を始めたきっかけをお聞かせください。

A 本園の守恒保育園に待機児童が多く、それを解消するためが第一の目的です。昨年の9月に市から要請があり、様々なことを考慮した上で事業を始めました。父母が守恒保育園を昭和54年3月10日に創立し、平成23年からは私が引き継ぎ、時代の流れの中、親が成したように自分の出来る事をしようと決意しました。それから開園まではあつという間でした。でも、何度役所に足を運んだか分かりません。一番苦労したのは、どの保育施設でも同じだと思いますが保育士の確保でした。また、施設の場所も当初本園の横に計画しておりましたが、うまくいかず、のちに今の場所を確保でき、関係者の方には本当に感謝しております。

Q 守恒さくら保育園の保育方針についてお聞かせください。

保育目標は、
1、健康（元気な強い子供）



2、明朗（明るい 規律のある子供）
3、感謝（ありがとうが 心から言える子供）
4、互譲（がまん強い 優しい子供）
本園と同じ保育目標、同じ保育方針です。カリキュラムも通常の保育園と同じように作り実践しています。個人カリキュラムもあり人数が少ない分、個々に応じた保育、子どもの個性に応じた保育をします。0歳児クラスはひよこ組、1歳児クラスはうさぎ組、2歳児クラスはきりん組、と親しみ



やすい動物のイメージで私が決めました。園庭がないので、近くのさくら徳力公園へよく散歩に出かけます。子ども達が開放感を味わったり、季節ごとの自然を堪能出来たりしています。春になると、桜並木がとても美しく、「守恒さくら保育園」は、本園の園章が桜だったので、それから名付けたのですが、この地域は「桜」の名称を使っているところが多くあり、偶然、桜を使ったのは何か御縁があったのでしょうか。夏のプール遊びは、サンシェードで日よけ

Q

守恒さくら保育園の施設の特徴とコンセプトがあればお聞かせください。

A

小規模というイメージを持たせず、通常の保育園と同じような施設をと考えました。小規模保育園は床面積が80㎡あればいいのですが、ここは183㎡あります。私の思いとして、本園と同じような空間と設備で過ごさせたい、広い場所遊びや生活を充実させたいとずっと思っていましたから、この物件を見て、ここならばと思いました。もともとここは小児科医院だったのですが、活用できる場所や設備は残しました。1階が入口（送迎）、駐車場（6台）で2階は保育室ですが、例えば、2階の事務所はもと医院長室です。待合室の遊び場スペースだったところは、そのままコーナーあそび場として使用しています。フロアは、壁で2クラスになるように仕切っています。日差しも良く入り、開放感があります。

保護者はマンシヨンの一室と

いう小規模保育園にマイナスのイメージを持たれていましたが、実際に見学に来られると納得して入園を決められます。

私が、広さと環境にこだわりをもつのは、以前、東京のテレビ放送で小規模事業について放映されていました。その保育園もマンシヨンの一室でした。その狭いイメージが私の中に残っていたからです。

Q 本園と小規模保育園が、一緒に活動することはありますか？

A

今年度は残念ながらしていませんが、来年度からは交流を多く持ちたいと職員達とも話し合っています。施設は本園と少し離れていますが、本園と連携を持つことが小規模保育事業の基本です。運動会、発表会、その他、様々な場面でいつ、どのような方法で交流していくか、考えなければなりません。子ども達にとって良いことは積極的に取り入れていきたいと思っています。

■インタビューを終えて

仁科博光園長（代行）先生の、広さを主に環境設備にこだわった施

設内は、明るく清潔感溢れるものでした。ちょうど午睡時に訪問したため、子ども達の元気な声を聞くことが出来ませんでした。安らかな寝顔からは、安心して過ごせる充実した日々の生活を想像することができました。また、職員の方々は事務仕事、誕生カード製作等、時間を惜しむかのように手を動かしていました。保育に対する情熱を感じました。小規模保育園の充実発展を目指していることを感じました。



研修報告

第二回九州保育三団体研究大会



大会は七月十五日、十七日に佐賀県唐津市で開かれました。初日の「第二十七回九州ブロック保育士セミナー」では東京家政大学の那須信樹先生より「保育新制度における乳幼児の『教育』の位置づけを問う」というテーマでお話を頂きました。二日目は第三分科会「保育者の資質向上を図る」に参加させていただきました。北九州市保育士会副会長の黒田玲子先生が「北九州の指導計画研修の取り組みについて」と題して発表下さいました。以前「保育の友」の指導計画一歳児を北九州が担った時の研究を重ねるお姿から、学び合いの心と組織力を知ることができました。助言者の福岡女学院

大学の坂田先生からも「人とつながり謙虚になる事が大切」とお言葉を頂き、保育者として学び続ける姿勢の大事さを改めて感じました。来年は北九州が会場となりますが、多くの方々との出会いと学び合いを楽しみに帰路につきました。

ナオミ愛児園

山田 伴子

福岡県保育協議会保育士研修研究大会

九月三日、福岡県保育協議会保育士会研修研究大会が開催され、午前中は「子どもの育ちを支える」——激変する家族・社会・制度の中で——をテーマに実践発表がありました。

午後の記念講演は大方美香先生の「子どもの育ちへの支援〜養護と教育の視点〜」でした。大方先生は、「保育士一人ひとりの働きかけの中に養護と教育的視点の配慮がある。それを次世代育成の中で伝えていくことを忘れないで欲しい。



人ひとりの働きかけの中に養護と教育的視点の配慮がある。それを次世代育成の中で伝えていくことを忘れないで欲しい。

また、生活の中にダイヤモンドの原石のような場面があり、この場面をいかに輝かせるかは私たちにかかっています。」と、話されました。盛り沢山の話しを聞き、改めて保育の奥深さ、次世代育成に関わる人間として伝える責任を感じました。

生活文化、時代が変わる今、子どもに関わる専門家として「視点はいつも子どもたち」のメッセージを忘れず日々研鑽したいと思っています。

旭ヶ丘保育園

中島 睦世

出前育児教室

平成二十七年九月五日（土）ウエルとばた中ホールに於いて『未来につながる家族の絆』をテーマとして、第三十回出前育児教室が開催されました。式典に続いて、北九州市保育士会名誉会長 藤岡佐規子先生による「家族ってなんだろう〜幼な子にとつての親とは〜」と題しての講演や、すみだ川のほとりに笑顔咲くほいくえん 園長菊地政隆先生によるうたあそび「まあせんせいとあそぼう」が行なわれ、参加者からは「心が熱くなりました」などの感動の声が聞かれました。その後、会場を多目的ホールに移し、大盛況となった保育所給食の試食、育児相



談、子どもたちへのお土産手作りおもちゃ「だるまさん」を使ったお話などが行われ、充実した一時となりました。

予定数を上回る五百人もの参加者があった

ことを聞き、こうした取り組みに関心をもっておられる保護者が沢山いらつしやることを嬉しく思うと同時に、地域の子育て家庭を支えていく北九州市保育士会の強い志を感じ、自分自身の保育への活力となりました。

清滝保育園

海老 幸子

寄付

（二社）北九州市保育所連盟

へご寄付

（二社）北九州市保育所連盟
酒井光義会長より義父様のご逝去に伴い、保育事業発展のためご芳志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げますと共に心から手を合わせさせていただきます。

支部近況

第7回

小倉北区篇

みんなで作る「保育まつり」

小倉北区保育まつりを7月11日（土）に人形劇団「ののはな」の納富俊郎・祥子氏を招き総合福祉センターアシストで開催しました。参加された150名の親子の方々には保育所（園）の一日を紹介したり保育士と一緒に遊んだりと認可保育所（園）のアピールができたのではないかと思います。

企画を練る際は、各園から企画委員が選出され色々なアイデアが出されるのですが、今年は北区の保育士会で実施する研修とコラボができないだろうかとの意見が出されました。今年度のフリー研修で「保育に活かせる人形作り」を納富氏に指導していただく機会があり、保育まつりのイメージを持って、事前に内容を検討していただきました。

「保育士と一緒に遊ぼう」のコー

ナーでは、研修の成果の一つ「コップんこシアター」を使い「こぶたぬきつねこ」を歌ったり、お土産としても一つ一つの研修の成果「パタパタちようちよ」を作り、子どもたちにプレゼントをすることができました。フリー研修に参加した職員も自分の作った作品が「保育まつり」で活用できるとあって、張り切る姿も見られました。こうした取り組みを継続し、支部・保育士会、研修会講師といった様々な人の関わりを広げ、皆で作る「保育まつり」を目指していきたいと思っています。



コップんこシアター



納富氏による人形劇



パタパタちようちよ

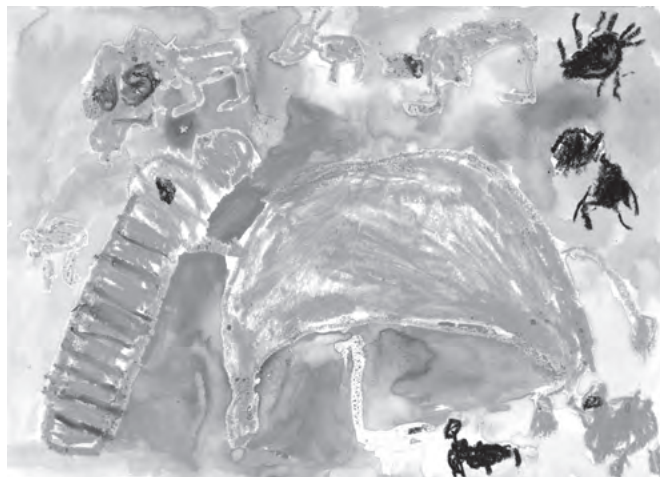
夏の祭典 職員親睦会サマーピクニック

保育所連盟小倉北支部職員親睦会「サマーピクニック」は、4年に一度夏の夜に会員の親睦を深めることを主旨に開催しています（平成26年でやっと3回目を迎えた事業です）。

26年8月に行ったサマーピクニックのアトラクションでは、愛の園保育園田中園長のピアノ演奏と八幡西区池田保育園阿部園長ご夫妻の素敵な歌声で♪癒しのひとときを過ごすことができました。これからも新年会同様会員の親睦を深める良き場になればと考えています。

このカットは26年のサマーピクニックの時のプログラムに使ったイラストです。田中先生と阿部先生ご夫妻！素敵でしょ！（カットは南丘保育所平野所長作です）





どうぶつえんに いったよ

(5歳児の作品)

雑

感

命を守る

今年の夏は数年ぶりに台風十五号が北九州を直撃し、あちらこちらに被害の爪跡を残しました。保育所でも樹木が倒れ、人や建物に被害はなかったものの、自然の力の凄さを思い知らされました。

前日から、何人かの保護者に「明日、保育所は開いていますか」と聞かれました。「はい、開いていますよ。明日はお仕事ですか。くれぐれも気を付けて来てくださいね」と伝えると、どの保護者も「良かった。保育所が開まっていれば、こうしたものかと思っていました」とほっとされた様子でした。

当日、台風の接近時間と登所時間が重なり、子どもや職員は大丈夫だろうかと心配しながら早めに出動しました。職員も早めに出動し、子ども達は保護者に抱きかかえられるようにして登所して来ました。全員がひとつの部屋に集まって遊んでいる時に突然、携帯電話に、避難勧告の発令を知らせるメールが届きました。保育所は土砂災害警戒区域内にあり、すぐ隣は土砂災害特別警戒区域に指定されています。日頃から土砂災害を想定した避難訓練には、力を入れていました。しかし、初めての避難勧告に、私自身、緊張が走り

ました。外を見ると、風が吹き荒れ、とても子どもを連れて避難できるような状況ではありませんでした。結局、その場に留まっておくように指示されましたが、勧告が解除されるまでは「避難指示に変わった時はどのように逃げるのか」など様々なことが頭を駆け巡りました。程なく勧告は解除されましたが、改めて「子どもの命を預かっている」という責任の重さを痛感しました。

最近、地球温暖化の影響からか、自然災害による甚大な被害が出ています。心のどこかで「北九州は大丈夫」と思い、油断していた所もあったのではと反省しました。自然災害は人間の力では太刀打ちできません。「いつ、どこで、何が起こるか分からない」ということを心に留め、いざという時に慌てないためにも、職員間でしっかり共通認識を持つことの必要性を感じました。所長として、正確で最新の情報を入手することが必要です。日頃から関係機関との連携を心がけ、「安全第一、子どもの命を守る」ということを肝に銘じて的確な判断ができる力を身につけたいと思います。

堂山保育所 岸 清 美

編集後記 — 言葉は体をあらわす —

先輩僧侶からの手紙で、明治大学教授で作家でもある斎藤孝さんのエッセイが紹介されていた。その手紙から少し抜粋したい。以下抜粋～時代とともに日常生活から消えてゆく動作がある。たとえば昨今タオルを「絞る」ことができない子どもがいるとき。家でも学校でも雑巾がけをしなくなった。洗濯物を手で「絞る」こともない。タオルを「絞れ」ない人は知恵やアイデアを「絞る」こともできない。紐をきちんと「締めて・結ぶ」ことが出来ない人は気持ちを引き「締め」ることも、人と縁を「結んで」いくこともできない。鉛筆を削ったことのない人は身を「削る」ような努力はできそうにない～以上抜粋終了。保育園では子どもたちに多くの体験をさせている。しかしいま述べたような動詞を徹底的に行うことは園単独では難しい側面もあるだろう。やはり家庭と園とが一緒になって子どもたちに多くの経験をしてもらうことが大事になってくる。人間は言葉を実感——その意味と体が一致することで成長していくとも聞く。われわれ保育者も身を削って知恵を絞り子どもたちや保護者と縁を結んでいきたい。

「保育北九州」編集長 日 野 真 人